

一般財団法人 日本老人福祉財団〈ゆうゆうの里〉

RECRUIT BOOK



介護付有料老人ホーム



一般財団法人 日本老人福祉財団

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-7-7

TEL:03-3662-3611 FAX:03-3662-3656



「ありがとう」にあふれる仕事をしよう。

ケアの本質は、ご入居者と職員がお互いの気持ちを尊重し合い、信頼関係を築くことにありと考えています。
一人ひとりの希望や悩みに耳を傾け、ケアを提供する職員のもとには、日々たくさんの「ありがとう」が届きます。
この積み重ねが、お互いをもっと大切な存在にするのです。
心からの「ありがとう」にあふれる仕事を一緒にできる日を、楽しみにしています。

職員からの ありがとうエピソード

食事配膳の時、同じ課の先輩職員から「お互いにフォローし合えたから、大きな遅れもなく夕食を提供できたよ。ありがとう」と言われました。自分自身でも、できる限りフォローにまわって少しでも力になりたいと思っていたので、先輩職員から直接声をかけていただき、喜びと感謝の気持ちが湧きました。困難な状況に直面しても今の自分にできることを考えて、周りの職員と一緒に力を合わせて頑張りたいです。

(ケアサービス課 1年目職員)

夜勤中に緊急搬送されたご入居者を、夜勤職員のみで対応した日のこと。当時の私は外部受診の付き添いも行ったことがなかったので、代わりに夜間パトロールを申し出ました。役割分担をし、無事に業務は終了しましたが、その時に「パトロールを進んでやってくれてありがとう」と言っていただきました。自分でも役に立つことができた、と実感することができました。

(生活サービス課 3年目職員)

〈ゆうゆうの里〉では、次のような人材を求めています。

ご入居者の夢を叶えるお手伝いに
やりがいを感じる人。

これが私達の求める人物像です。職員として大切なことは、高い専門性を目指し、信頼してもらえる存在になること。そしてご入居者が夢と希望にチャレンジできるように、伴走者としてサポートすることです。相手の立場になって考え、心のこもったサービスを提供できる人を求めています。

たくさんの「ありがとう」に
ありがとう。

これは、ご入居者と職員、そして職員と職員との関係性を大切にする私達の「想い」を込めた採用メッセージ。日常の何気ないやりとりや、会話から生まれる言葉「ありがとう」。この「ありがとう」をたくさんの人に送り、たくさんの人から送られる……。そんな職場づくりと、人と人との繋がりを大切にしたいと考えています。

ご入居者からの ありがとうエピソード

はじめてスマホを買ったときのこと。真夜中にアラームが鳴り響いてしまい、止め方が分からずに困っていたらすぐに来て止めてくれましたね。その後もいろいろな使い方を丁寧に教えてくれたおかげで、家族とチャットを楽しんでいます。スマホを使いこなせるようになってくれて、ありがとう。

(ご入居者 A様)

がんの治療で長期入院をしたことがあります。退院直後は寝たきりになってしまったのですが、「また歩けるようになりたい」と言う「まずは座れるようになりますよ」と具体的な助言をくれましたね。その言葉を信じて頑張ったら、数カ月後に一人で歩けるようになりました。本当にありがとうございます。

(ご入居者 B様)



一般財団法人 日本老人福祉財団 理事長 小口 明彦

大切な人と支え合う場所を、
これからも共に守り、育んでいこう。

私達は、設立当初から「最期まで安心して生活できるコミュニティを作りたい」という想いを大切にしてきました。そんな当財団の特徴は、ご入居者同士はもちろん、職員や地域の方々との交流を通して、お互いを尊重し合う関係を築いている点です。介護サービスは、必ずしも本人が望んで受けるものではないかもしれません。だからこそ「あなたを大切に想っている」ことを伝えていかなければなりません。私達はそうした、人と人との支え合いを重んじる理想のコミュニティを目指し続けたいと思います。この考え方に共感していただける方と共に働ける日を心よりお待ちしております。

基本理念

豊かな福祉社会の実現を目指して

- ① 私達は、老後の“安心”と“幸せ”を提供することにより社会へ貢献します。
- ② 私達は、はたらく人達の“人間性”を大切にします。

ご入居者が安心して幸せな生活を送ることで、同時に職員が働くことに誇りを持つことが、日本老人福祉財団の運営の基本です。

ケア・スピリット

私にとって、あなたはとても大切な人です。

ケア・スピリットに込めた、ご入居者と職員への想い

相手に常に関心を持つ、熱意をもって対応する、思いやりを持ち相手の立場に立って考える、傍らに寄り添うなど、ご入居者に対してはもちろんのこと、職員同士の間にも根付いています。大切なご入居者、職員のために、一人ひとりが考え、行動し、豊かな生活を過ごすことができる社会を目指します。

全国7ヶ所で 理想の高齢者コミュニティへ

高齢者の生きがいや豊かな老後とは何かを追究したい、という思いから私達の財団は始まりました。1976年に浜松市に〈ゆうゆうの里〉が誕生し、以来50年にわたり、全国7ヶ所で〈ゆうゆうの里〉を運営しています。創立100周年に向けて、「高齢者コミュニティ」のさらなる進化を目指しています。



浜松



伊豆高原



神戸



湯河原



大阪



佐倉



京都

財団・施設の歩み

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1973年 厚生大臣認可の財団法人として設立 | 1995年 阪神・淡路大震災 被災者へ入浴サービス実施 |
| 1976年 静岡県浜松市に浜松〈ゆうゆうの里〉開設 | 1997年 京都府宇治市に京都〈ゆうゆうの里〉開設 |
| 1979年 静岡県伊東市に伊豆高原〈ゆうゆうの里〉開設 | 2001年 「第1回職員実践研究発表会」開催 |
| 1983年 兵庫県神戸市に神戸〈ゆうゆうの里〉開設 | 2011年 東日本大震災被災地支援活動 |
| 1983年 神奈川県湯河原町に湯河原〈ゆうゆうの里〉開設 | 2013年 一般財団法人日本老人福祉財団に移行 |
| 1985年 大阪府守口市に大阪〈ゆうゆうの里〉開設 | 2022年 健康経営優良法人認定 |
| 1988年 千葉県佐倉市に佐倉〈ゆうゆうの里〉開設 | 2023年 日本老人福祉財団創立50周年 |

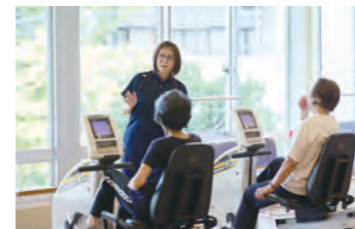


4つのキーワードから見る〈ゆうゆうの里〉



お元気な方がご自身の意思で入居する住まい

〈ゆうゆうの里〉のご入居者は7割がお元気な方です。「元気な時期に自分の意思で入居を決める住まい」がコンセプトで、いわば“元気付き”有料老人ホームです。自立期から入居し、心配とは無縁の環境で元気に第二の人生を謳歌する選択肢を選んでいきます。自立期のご入居者は基本的に全てのことをご自身で行うため、より豊かな生活を過ごすためのサービスの提供を、職員は行うことになります。



ご入居者の状態に合わせた多様な仕事にチャレンジできる

お元気な方から要介護の方まで、一人ひとりに合わせた支援を行う〈ゆうゆうの里〉を、多彩な業務が支えています。行事の企画運営などを行うコミュニティサービス、ご入居者がより元気になるための援助を行うアスレチックジムトレーニング、要介護者への身体介護、ケアプラン作成、生活相談業務など、あなたの意欲次第でさまざまな業務にチャレンジすることができます。

最期まで切れ目のないその方へ最適なサービスを提供

ご入居者が安心して過ごせるように、きめ細やかな支援を最期まで行うのが、私達の最も大切な使命です。一部の身の回りの援助で十分な時期なら、ご入居者の能力を活かす支援を。介護が必要になれば、一人ひとりの状況に合わせたケアプランに基づいた介護を。そして終末期には、ご入居者の意志や尊厳を尊重し、穏やかな暮らしを送るための支援を。最期まで安心して生活を送ることのできる“終の棲家”を目指しています。



ご入居者の安全と職員の負担軽減を目的に介護DXを推進

紙に書いていた介護記録をパソコンで管理できるソフトや、食堂に来られたご入居者を顔認証して食事受付を行う喫食管理システムを全施設で導入しました。離床センサーやカメラなどを活用した高齢者見守りシステムを利用することで、24時間365日ご入居者の生活リズムなどを把握しています。〈ゆうゆうの里〉では、今後も介護現場の負担軽減と共に、ご入居者の方々が安心できる暮らしを提供できる仕組みづくりを目指し、介護DXを積極的に推進していきます。



現場で活躍する職員が日々いただく「ありがとう」。
この特別な一言にまつわるとっておきのエピソードをご紹介します。

職員 ONE DAY

いつもの一日を特別にする、
魔法の言葉です。

ご入居者の方の車椅子を押したり、お部屋のカーテンを閉めたり、廊下で挨拶を交わしたり——そんな小さな行動一つひとつにも、「いつもありがとう」と感謝の言葉をいただく日々。特別な言葉ではないのに、不思議とその日が特別な一日になるんです。入社したばかりの頃は、何をやるにも緊張していました。まずは仕事を覚えて、ご入居者の生活をちゃんとサポートできるようにならなくちゃ、という一心でした。そんな私が先輩のケアを手伝っただけで、ご入居者の方から「あなたもありがとうね」と声を掛けていただけました。そして先輩たちのサポートのおかげで少しずつ仕事に慣れ、ご入居者の方々と顔なじみになると、自然と「ありがとう」と言われる機会も増えていきました。今では、例えば着替えのサポートをするとき、腕を通しやすいようにそっと手を添えるなど、自然と相手の立場に立って行動できるようになっています。私の成長の原動力は「ありがとう」だったんだと今はよく分かります。

目の前のご入居者がどんなサポートを必要とされていらっしゃるか、常に考えながら行動することがもとめられるので、大変でもあります。何よりも日々いただく「ありがとう」の言葉が、私を支え、背中を押してくれます。「今日も頑張ろう」「明日はもう一つできることを増やそう」と思えるのは、その感謝の言葉のおかげです。

大阪〈ゆうゆうの里〉
生活サービス課 2023年入職

土田 佳奈

Kana Tsuchida



京都〈ゆうゆうの里〉
ケアサービス課 2016年入職

馬淵 龍憲

Ryuken Mabuchi



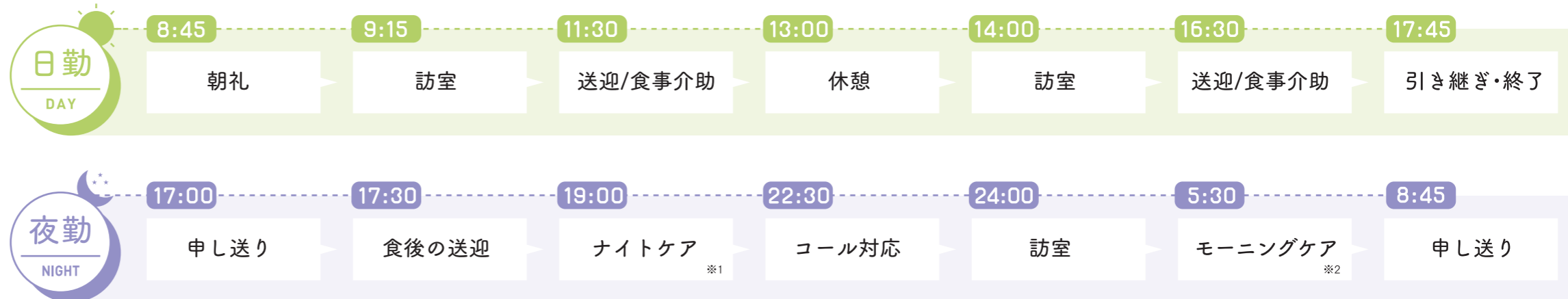
一生忘れることのない
「ありがとう」があることを、
教わりました。



女性ご入居者(Aさん)からいただいた「ありがとう」の言葉を、私は忘れることはないでしょう。Aさんはご夫婦で入居され、穏やかな日々を送られていました。私はそのお二人の担当スタッフとして、日常的なサポートを行いながら、仲の良いお二人の生活を見守っていました。ある夜、旦那様が体調を崩され、施設の診療所で診察を受けることに。ですが、病状が思わしくないため、外部の病院でより詳しい検査が行われ、そのまま入院となりました。私はその間ずっとお二人に寄り添い続けました。そして、一時は回復の兆しが見えたものの、最終的にはご家族に囲まれながら安らかにお亡くなりになったのです。

それから3年後、Aさんとお話をしていたとき、ふと「あの日、私達のそばで支えてくれてありがとうね」という言葉をいただいたのです。驚いたのは、あの日の天気から私が履いていた靴の色まで、鮮明に覚えていらっしゃるということです。Aさんにとって一生忘れることのない日に寄り添えたこと。そして自分の行動が、微力ながらもAさんの身体だけでなく心も支えていたことに、その一言で気づかされました。

私達の仕事は、ご入居者の人生に寄り添う仕事です。いずれ来る、お別れの瞬間もあります。それだけに、いただく「ありがとう」の言葉には特別な重みがあると感じています。これからも、ご入居者との触れ合いを大切に、たくさんの「ありがとう」に出会い、その言葉を力に変えていきたいと思っています。



※1 ご入居者の更衣援助や口腔ケアなどを行います。就寝前の一連のお手伝いをして、一つひとつチェックをしたのち、「おやすみなさい」のご挨拶をします。※2 ご入居者の更衣援助や整容を行います。起きている方、まだお休みの方など、ご入居者の生活リズムを崩さないように注意します。

〈ゆうゆうの里〉を支える仕事紹介

多様な仕事にチャレンジできる環境

〈ゆうゆうの里〉にはお元気な方から、要支援・要介護の方までさまざまな状態のご入居者が一緒に暮らしています。そのため、一人ひとりの状態に対応できるように、コミュニティサービス、アスレチックジムトレーニングサービス、要介護者への身体介護、ケアプラン作成、生活相談業務など幅広い業務を行っています。また、課の垣根を越えた委員会活動では、サービスの向上や働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでおり、本人のスキルや意欲次第でさまざまな業務にチャレンジすることができます。



介護職の仕事

コミュニティ担当



行事の企画運営やコンシェルジュサービスをはじめ、さまざまな間接的サービスを行います。

デイルーム担当



日中、介護が必要なご入居者が利用するデイルームでサービスを行います。

トレーナー



介護技術トレーナーや接遇マナートレーナーなど専門分野で職員に対して指導的な役割を果たします。

計画作成担当者



介護保険制度に基づいて、ご入居者のためにケアプランを作成します。
※介護支援専門員有資格者

生活相談員



ご入居者やご家族を対象として心身や生活面の相談援助を行います。

アスレチックジムトレーナー



ご入居者一人ひとりに相応しいプログラムを作成してトレーニングを行います。

その他の仕事



看護職員

施設内併設の診療所で看護業務を行います。主な役割は、医師の指示に基づく服薬管理や採血、点滴などの処置と、ご入居者の健康状態のチェックです。日々の健康管理や健康相談を通じ、ご入居者の体調の微細な変化に目を配り、早期発見に努めています。もしもの時には、医師や介護職員と連携し、迅速かつ適切に対応を行います。

栄養士・調理師

栄養バランスと美しい盛り付け、食材の質にもこだわった、心のこもった料理を毎日作っています。健康状態に合わせた嚥下食や治療食の提供はもちろん、和洋中のメニューを取り揃え、新しい美味しさを追求するためのメニュー開発にも積極的に取り組んでいます。食を通じて健康を支え、ご入居者の豊かな生活の一部となるよう心がけています。



施設維持

日常的な設備点検、備品管理、ご入居者の居室や共用設備の修繕工事の監理を通じて、施設全体の建物や敷地の維持管理を担っています。また、増築やリフォームなどの大きな工事を担当するチャンスもあります。ご入居者が安心して過ごせる環境を支える重要な役割であり、業務を通じて施設全体の価値を高める仕事でもあります。

事務職

勤怠管理、給与計算、社会保険手続きや採用を行う総務、ご入居者の管理費請求や取引先への支払管理を行う経理など、幅広い業務を担当しています。また、入居者募集では広告の作成から見学会や体験入居の実施、契約手続きまで行います。ご入居者にとって住みやすく、職員が働きやすい環境を整えるのが、事務職の役割です。





人材育成制度・研修制度

日本老人福祉財団では、職員が安心して、いきいきと働ける環境が整っているからこそ、ご入居者に最適なサービスが提供できると考えています。職員の多様化するニーズに応えるための制度を一部ご紹介します。

エルダー制度



入社した当初は不安や心配なことが多くあると思いますが、財団では、先輩職員が一对一で仕事を教えていきます。そのため、困りごとはエルダーに相談し解消していく、職員にとって優しい企業風土があります。未経験の方や福祉に関する知識に不安を感じている方も、まったく心配ありません。エルダー制度を通じて成長し、次はあなたがエルダーとなって、後輩に仕事を教えてください。

※介護職(新卒者)への制度となります。

職員の一言

社会人としてちゃんと職場の雰囲気になじめるかな…と心配でしたが、年の近い先輩がエルダーとして温かく仕事やプライベートのことなど、なんでも相談に乗ってくれるのでとても助かります！

資格応援制度



介護福祉士、介護支援専門員などの有資格者に手当を支給しています。介護福祉士の受験資格には3年以上の介護実務経験と、「介護福祉士実務者研修」を修了する必要があります。財団の費用負担で研修を受講することができます。また、社会福祉士、認知症ケア専門士などの資格所持者も活躍しています。施設ごとに職員による勉強会を行い、介護職としてスキルアップできる環境が整っています。

職員の一言

勉強会を活用して先輩に教えてもらいながら介護未経験の私でも介護福祉士に合格することができました。また頑張った資格が給与に反映されて、次の資格取得に向けてやる気がでます。

職員実践研究活動



職員一人ひとりが持つ日常業務の中での気づきや疑問には、ご入居者の生活の質を上げる業務改善のヒントが隠れています。職員実践研究活動は、これらの気づき・疑問を整理し、職員が自分の課題として捉え、改善する研究活動です。「ご入居者からこんな相談をいただいた」「このようにサポートの仕方を広げれば、ご入居者にもっと喜んでいただけるのでは」などの研究の成果をまとめて発表。財団内だけでなく社会にも広く発信しています。

職員の一言

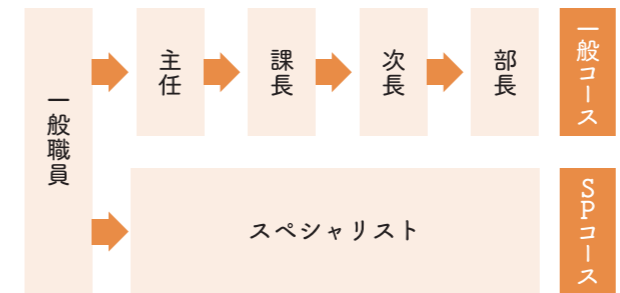
ご入居者へよりよいアクティビティを行うため、課内で共同研究をしました。仮説を立てて実施し、アンケート集計をすると多くの気づきがあり、ご入居者にも喜んでもらえる結果になりました！

人事評価制度

確実にステップアップできるキャリアパス制度

01 複線型人事制度

職員一人ひとりのキャリアが柔軟に設計できるように、管理職を目指す「一般職コース」とは別に、現場で高い専門性を活かす「スペシャリストコース(SPコース)」を創設しました。



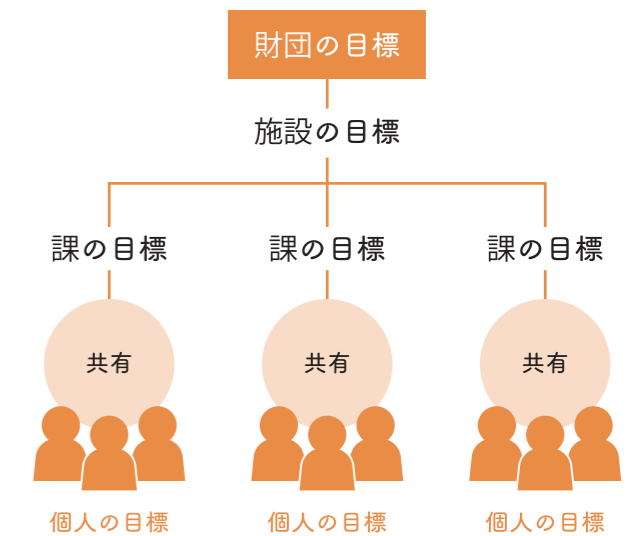
02 キャリアラダー制度

はしごを一つひとつ登るようにキャリアアップできる制度です。業務内容やスキル、到達すべき目標を定義し、下から上の階級へ着実にキャリアアップすることができます。



03 目標管理(OKR)制度

財団の目標、施設の目標、課の目標が一人ひとりの目標につながり、共通の重要課題に取り組むことができます。上司と相談しながら、年度初めに個人の目標を設定し、3ヶ月ごとに振り返って目標の達成を目指します。



現場の「ありがとう」を日々のモチベーションに

ご入居者から日常的に感謝されることが多い介護の現場ですが、無数の「ありがとう」はその場限りにせず、「エピソードシート」にまとめています。この「エピソードシート」の内容は、評価のポイントとして賞与に反映する仕組みを始めました。

研修制度

職員一人ひとりの成長を支える研修体制

職員の成長や連帯感を高めるために階層別研修を実施しています。その他にも、専門研修やeラーニングも行っています。こうした取組みを通じて、スキル向上と組織の活性化を目指しています。





職員の健康サポート

3大疾病サポート、健康診断、腰痛予防、ストレスチェック、インフルエンザ予防接種、ノーリフトケアなど、職員の健康や体への負担軽減のためのサポート体制が整っています。



職員互助会制度

職員の相互扶助および福利厚生の増進を図るための制度です。病気やけがをした時の休業補償、慶弔金、リフレッシュ費用補助などを行っています。



休日・休暇制度

年間休日:120日(月10日のシフト制)
有給休暇:入職時に10日付与(勤続3年以上で20日付与)
時間有給休暇:有給休暇のうち1年に40時間まで時間単位の取得可能
特別休暇:慶弔休暇・介護休暇・看護休暇 等



出産・育児制度

産前産後休暇:出産予定日6週間前から出産後8週間まで
育児休業:最大で子どもが2歳に達するまで
時短勤務制度:子どもが小学校に入学するまでの間、1日最大2時間短縮可能



職員宿舎

施設内宿舎(本人負担は8,000円~15,000円程度)、借上げ住宅(本人負担は家賃の半額)があるため安心です。
※上限50,000円



食事補助

施設内の食堂で、ご入居者と同じ栄養バランス満点でおいしい食事を職員割引価格で食べることができます。



永年勤続表彰

勤続10年・20年・30年・40年に表彰しています。対象者には年数に応じて、商品券の贈呈とリフレッシュ休暇の付与をしています。



退職金・確定拠出年金制度

勤続3年以上の職員が退職する時には退職手当が支給されます。また、確定拠出年金に任意で加入することができます。職員が毎月拠出する掛金を運用し、老後資金の準備をサポートします。

※2024.4時点

1,194人



職員数 全国7施設で過ごす2,500名以上のご入居者の日常を支えるために、たくさんの職員が今日も活躍しています。

※2024.4時点



男女比 約 1:2

女性の比率が多いですが、性別に関係なく全員が長く働ける職場づくりに日々取り組んでいます。



1973年

創業年 半世紀以上にわたり、社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、私達は高齢者福祉を通じた地域文化の創造を続けています。



13期

黒字経営



120日

年間休日数 いい仕事にはいい休暇が大切だから、休日数は多め。シフト制で希望休もあり、プライベートと仕事の両立が可能です。

※2023年度

有休取得数

有給休暇を取りにくい、ということはありません。先輩たちのようにぜひ活用し、プライベートを充実させてください。

13.6日



※2023年度

育休取得人数

男性も含めた育休の取得を奨励し、誰もがライフイベントを経ても活躍いただける体制を整えています。

11人 うち、男性2名取得



100%

育休取得者復帰率

育休前と同じように働けるかという不安を払拭できるように、周りの職員が一丸となって復帰した方のサポートをしています。